

平成 22 年度第 2 回「事業仕分け」に関するアンケート集計結果

傍聴人受付簿記入者 19 名のうち回答をいただいた方 14 名

1. 回答いただいた方

居住地

木津川市	11 名	78.57%
木津川市外	3 名	21.43%

※無回答 1 名

◎木津川市民が全体の 78.57% (前回 83.33%)

年 齢

20 歳代	1 名	7.15%
30 歳代	3 名	21.43%
40 歳代	3 名	21.43%
50 歳代	3 名	21.43%
60 歳代	2 名	14.28%
70 歳代	2 名	14.28%

◎50 歳代～60 歳代の方が全体の 35.71% (前回 84.00%)

性 別

男性	10 名	71.43%
女性	4 名	28.57%

◎男性が 71.43% (前回 80.00%)

傍聴のきっかけ

市の広報	7 名	50.00%
市のホームページ	3 名	21.43%
その他(新聞他)	4 名	28.57%

◎市の広報が傍聴となったきっかけの 50.00% (前回 56.67%)

傍聴の動機

- テレビで「事業仕分け」を見て、自分も実際にどういうことをしているのか見てみたくなったので。
- 活発にされておるのか拝見したいので。
- 各事業内容を知りたいため (自分が評価者になったつもりで)
- 説明者側の意向・委員全体の姿勢が知りたい。
- 職務上、気になる案件であるため。
- 市政の取組に関心があるため。
- 税金の使い方に関心があるため。

- 聞いてみたい内容だったため。
- 担当業務に関することであり、どのようにして説明されたり、指摘を受けたりするのか学ぶため。
- 効率化について不安があるから。

2. 各事業の説明や質疑応答における職員の対応

適切であった	4名	28.57%
概ね適切であった	5名	35.71%
普通	4名	28.57%
やや不適切であった	1名	7.15%
不適切であった	0名	0.00%

◎職員の対応が普通以上 92.85%（前回 82.61%）、やや不適切及び不適切が 7.15%

3. 評価者の意見及び判定結果

適切であった	3名	21.42%
概ね適切であった	4名	28.57%
普通	5名	35.71%
やや不適切であった	1名	7.15%
なんとも言えない	1名	7.15%

◎評価者の対応が普通以上 85.70%（前回 71.43%）、やや不適切及びなんとも言えないが 14.30%（前回 28.57%）

4. その他（意見や感想）

- もう少し深い議論をしてほしい。時間がもう少し長い方が良かった。
- 改善の点があるのなら、意見を述べて欲しい。
- ①評価者は木津川市民の方ですか。②人件費を含む費用で議論すべきではないか。
- ①福祉医療費（子育て）助成事業；制度を部分的にみるよりも、基本となる医療（保険）制度の全体像との関係で、制度の可否をバランスも保ちながら判断するのは、もう一步踏み込めていないと感じた。②総合がん検診事業；その後のフォローをどうしているのかも含めての議論が不足していると感じた。受診率のUPは当面の目標であっても、究極の目的ではない。③児童クラブ運営事業；所得制限スクリーニングの費用が大きくなっていくことにより、定額制とする理由に聞こえた。④障害福祉手当支給事業；概ね妥当な議論、結果。⑤山の家運営管理事業；概ね

妥当な議論、結果。

※いずれも個別の事業のみで判断した場合は概ね妥当な判断と思われます。過去の経過や全体を見渡した場合の判断は、少し違ってくると思います。もっと多くの市民の参加があればよかった。(今回はもう少し傍聴者が多かったと思う)

- 説明資料が当該事業のみの分析になっており、全体的視点のアプローチも必要であると思われる。この結果、事業の説得性が弱い。
- ①今日までの本件（事務事業仕分け作業）の審議経過（行財政改革推進委員会）を具体的に概要を説明願います。②適正化推進のため、個々の事業ごとの比較資料（平均コスト（単価））を提出願います。（平均基準位）（本市同規模）
- 「市実施改善」という判定結果が多いと思われませんが、今後、この結果をどのように事業に反映させていくのか。途中経過を公表していくのか。
- 山の家は自然の中にあり、自然を感じ、学ぶ施設と思う。また、施設は過疎地にあり、その地に生活する人の心の支えとなり、また、雇用の場となっている。棚田のように多面的機能をもっていると思う。精神的価値、総合的（面的関連）に評価してほしい。

以 上